

平成17年の自治公民館長を紹介します

倉吉市自治公民館連合会の会長及び副会長が、同連合会規約により2月4日の常任委員会(地区協議会長)で互選の結果、次のとおり決定しました。

会長 桑本圭二(生田) 副会長 池田壽雄(旭北) 副会長 岡野勝義(広瀬町) 副会長 小原一幸(寺谷)

自治公民館名	館長名	自治公民館名	館長名	自治公民館名	館長名	自治公民館名	館長名
上北条(10)	穴窪 福田寛治	成	見日町 石田敏昭	社	津原 石田進	高	今在家 山増成久
	大塚 仲倉裕幸		住吉町 穠久仙十郎		上神 中林正樹		服部 濱本篤富
	中江 牧田忠之		湊町 馬場茂		寺谷 小原一幸		旭原 藤井享
	新田 足羽一昭		東町 長谷川東光		大谷茶屋 井勢勝利		福積 佐藤博英
	井手畑 生駒正美		葵町 吉田禎元		和田 深田正則		岡 朝倉栄治
	下古川 上本武		仲ノ町 倉繁朝治		馬場町 小坂武彦		桜 松井利之
	古川 沢岸田威		宮川町 三谷誠		和田東町 合原三徳		河来見 河本則明
	小田 山本公孝		宮川町2丁目 池田宣之		不入岡 小谷直		横手 河野俊久
	小田東 藤本至		荒神町 土橋祐子		国府田 中聖治		大立 高間茂
	中江西 大月悦子		堺町1丁目 山下慶久		大沢 影井正美		上大立 政田喜代人
上井(17)	清谷 谷田和久	徳(23)	堺町2丁目 山本春典	(18)	大谷 大森敏広	城	般若 佐伯温行
	福庭 河口忠義		堺町3丁目 津村佳人		国分寺 池田勝美		棕波 山部秀樹
	福庭東 橋村優		研屋町 高田久		秋喜 小谷義博		立見 山崎靖志
	海田東町 伊藤観一		明治町 亀山隆一		福光 小椋郁男		富海 藤川嘉昭
	海田南町 穠近三郎		明治町2丁目 吉村隆明		横田 山口克洋		下大江 石賀由光
	海田西町・河北町 有福一雄		大正町 小谷卓弘		黒見 池田喜男		東鴨新町 内田美男
	大平町 谷田正義		大正町2丁目 田中俊幸		西福守町 由井洋之助		長坂町 吉村勲
	天神町 盛山信行		新町1丁目 角原重利		秋喜西町 永田憲吾		長坂新町 中井秀雄
	旭東 前田淳子		新町2丁目 國本洸紀		秋喜新町 三上一治		弓削 山下博
	旭西 一村正勝		新町3丁目 中尾和照		才ヶ崎 吉岡一郎		大宮 岡本考喜
西郷(10)	旭南 福本潔	明倫(16)	魚町 市川良二	北谷(18)	三江 田熊重雄	鴨(23)	岩倉 梅林正樹
	旭北 池田壽雄		東仲町 桑田東之夫		福本山 根哲明		菅原 小原勝美
	上井柳町 岡野邦彦		西仲町 高田嘉昌		尾田 藤井操		小鴨 丸田克孝
	上井本町 道上忠昭		西町 安藤充勉		志津 尾崎鉄晴		中河原 桑名英雄
	上井町1丁目東 隅川浩行		福吉町 谷口義博		仙隠 森下孝秋		中河原2 森康雄
	上井町1丁目西 足立猛		旭田町 坂本福朗		横谷 阪本幸雄		生田 桑本圭二
	河北団地 三好清治		金森町 井中正夫		藤井谷 山方英昭		打吹団地 南條教光
	山根 伊澤智彦		福吉町2丁目 中江勝行		福富 福井輝夫		北野 岩谷節男
	山根茶屋 永禮忠幸		瀬崎町 北代規一		沢谷 野島照正		北野住宅 岡崎郁子
	伊木 河村和幸		東岩倉町 大澤俊二		杉野 荒益正之		丸山町 柴田一彦
上灘(12)	八屋 矢木康雄	倫(16)	西岩倉町 田村幹夫	高	悴谷 山下高司	上	西倉吉町 中田勝弘
	下余戸 杉本訓志		越中町 小矢野毅彦		中野 佐々木茂樹		福守町 新田征男
	上余戸 涌嶋俊作		越殿町 宮近均		長谷 重道里史		鴨川町 富田敏一
	上余戸住宅 宮本妙子		広瀬町 岡野勝義		森 陰山幸則		鴨川町南 磯山良男
	栗尾 向井文夫		鍛冶町1丁目 伊藤達也		つつじが丘 山崎謙一		天神野 上田悦治
	大原 山口修身		鍛冶町2丁目 山崎政彦		大河内 山本晴輝		西鴨 森本岩松
	虹ヶ丘町 大塚保夫		河原町 小倉宏紀		汗干 佐々木英雄		蔵内 村本稔
	円谷町 内川隆明		余戸谷町 茂嶋延康		下米積 田中隆		上古川 海地清
	米田町 福井英紀		みどり町 森仁		上米積本郷 尾崎潤二		上古川住吉 坂出伸一
	駄経寺町 佐々木司郎		八幡町 山田敏彦		上米積東 藤本浩		石塚 小原正道
灘手(9)	下田中町 宮脇隆夫	灘	北面 秋久孝昭	城(24)	上米積西山 松義人	鴨(11)	福山 吉田公範
	上灘町 浦川いづみ		穴沢 伊藤源蔵		若葉町1丁目 阪本寿博		中田 栗原隆政
	田内 種部光宏		尾原 美船栄顕		若葉町2丁目 谷本秀人		若土 黒田和正
	東巖城町 河本光雄		半坂 筏津秀樹		下福田 隅坂義之		生竹 矢田克重
	三明寺東 河本繁治		別所 伊垢離正人		上福田 杉本寛仁		生竹仙隠 森下幸雄
	三明寺西 駒井幸雄		穴田 伊垢離和幸		昭 和岩本勝志		耳 竺原宏人
	昭和町 伊東保郎		鋤 田中希弘		妻ノ神 中井正直		広瀬 前田稔
	幸町 向井純悟		谷 湊良範		勝負谷 中川正一		合計 191

印は地区協議会長 印は地区協議会副会長 2月4日現在(敬称略)

地区名	現在の名称	変更後の名称	バス事業者	変更の理由
上 灘	昭 和 町	倉吉パークスクエア北口	日ノ丸バス・日本交通	観光客のもてなしの一環として変更
成 徳	明 治 町	赤瓦・白壁土蔵	日ノ丸バス・日本交通	
明 倫	福祉会館前	福 吉 町	日ノ丸バス・日本交通	現存しない施設の名称が使用されているため変更
上 井	営林署前	上井町一丁目東	日本交通	
"	上井町一丁目	上井町一丁目西	日ノ丸バス・日本交通	
灘 手	灘手農協前	灘手公民館前	日ノ丸バス	
社	農 協 前	歴史公園前	日ノ丸バス	

市内のバス停が、分かりやすい名前になります。

かねてより、増加する観光客へのもてなしの一環として、また、現存しない公共施設等の名称が使用されているバス停留所の名称変更について、検討してまいりましたが、このたび、市からバス事業者へお願いし、平成十七年四月からバス停の名称が変更されることになりました。

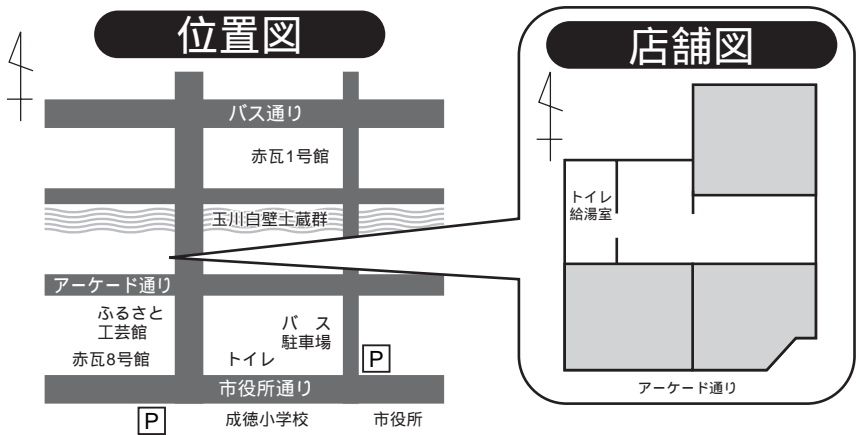
チャレンジショップ「あきない塾」 2期生店舗オープン！

鳥取県・倉吉市・倉吉商工会議所が連携して昨年より実施しているチャレンジショップ「あきない塾」の第2期生の店舗が2月5日(土)にオープンしました。あきない塾は、将来市内での独立開業を目指す「商業起業家の卵」のお店です。

今後、出店者に経営指導等を行い、独立開業できるよう支援をしていきます。皆さんもぜひお立ち寄りください。



店舗名(屋号)	ふみ子の手作り工房	玩壺窯(がんこがま)	手染屋ゆい
代表者名	やまねふみ子	小椋克彦	奥野和義
業種	工芸品(手作り)小物	陶器(手作り)小売	草木染製品(手作り)小売
取扱品目	シルバーアクセサリ、布製品等	陶器(器、オブジェ、アクセサリ等)	タペストリー、Tシャツ、のれん等



市報縮刷版

書籍名	掲載の期間	販売金額
第1集	1953.10.15 ~ 1978.3.15	2,300円
第2集	1978.4.1 ~ 1983.3.15	2,200円
第3集	1983.4.1 ~ 1988.3.15	2,700円
第4集	1988.4.1 ~ 1993.3.15	3,500円
第5集	1993.4.1 ~ 1998.3.15	5,000円

倉吉市史

巻番号	販売価格
第1巻 古代編	4,700円
第2巻 中・近世編	5,500円
第3巻 近・現代編	7,600円
第4巻 自然・文化編	6,900円
第5巻 別巻	3,400円
箱	600円
合計	28,700円

市では、倉吉市の古代から現代、自然と文化などについて編纂した倉吉市史と、昭和二十八年十月に第一号を発刊してから平成十年三月十五日号(第千一百一十号)までを縮小してまとめた市報縮刷版の販売を行っております。(ただし第一集は残り六冊)今年関金町との合併を前に、もう一度倉吉市を振り返ってみませんか。是非この機会にご購入ください。

**倉吉市史・市報縮刷版の
販売をしています。**

申込・問い合わせ先：秘書広報課 (☎22-8160 ☎22-8144)

アンニョンハセヨ!

韓召眞イムニダ

国際交流員 韓召眞

お年玉

セヘボクマニバドゥセヨ(明けましておめでとう)ございます!

「明けましておめでとうございます」の挨拶はもう時期はすれのような感じがしますね。しかし、韓国のお正月は二月九日でした。韓国ではお正月やお盆のような伝統行事はまだまだ旧暦を使っています。お正月には多くの人が本家に集まり、「先祖様を祀ったり、お墓参りをしながら過ごします。」

さて、新年の子供たちにとって一番の関心事といえば、当然お年玉ですね。韓国にも「セベトン」というお年玉があります。先日、ある小学校を訪問し、お正月の話をしました。子供たちに「皆さんはお年玉をもらうために何

かすることがありますか」と聞いたら半分以上の子供たちが「別に、テレビを見ていたらもらいました」と言っていました。

韓国ではお年玉をもらうためには「セベ」という韓国伝統の挨拶をしなければいけません。最近、お年玉を「たくさんもらえる方法」や「お母さんに取られない方法」、「少しでも多く稼げる方法」などの面白い意見がインターネットで広がっていました。

韓国の経済が不況であるため、あげる人も、もらう人も必死で頑張っています。何年か前に「ちびまる子ちゃん」で、まるちゃんがお年玉で五千円もの腹話術の人形を衝動買いし、一週間くらいで飽きて悔しがっていたという話を聞きました。やはりお年玉はもらうことも大事ですが、親が子供に使い方をちゃんと教えることも大事だと思います。

灘手小6年生

市長インタビュー

1月28日(金) 灘手小学校の6年生8人が、社会科の市役所見学で、長谷川市長にインタビューをするために、市役所を訪れました。

子どもたちは、交代で市長へ質問をし、また、地域の人から聞いたことをまとめ、市長へ「こんな街になってほしい!」「こんなところが変わってほしい!」などを交代で発表していました。



インタビューに訪れた子どもたち

人権尊重都市宣言のまち倉吉

部落解放シリーズ 621

今に生きる私たち大人の役割

いつの時代も、子どもはみんなの宝もの”です。大人にゆとりがないと子どもの発達を保障することはできません。今一度、地域社会の中での大人としての役割を再認識し、子どもたちが健やかに育っていくことのできる地域づくりに向けて、行動すべきではないでしょうか。



乳幼児に対する虐待はあとを絶たず、昨年十二月には、倉吉市でも新聞等で虐待の報道がありました。また子どもたちを無作為に狙う犯罪も各地で発生しており、子どもたちが安心して生活し、健やかに成長していくことが、私たち大人の手によって阻まれているという現状があります。

どうしてこのように殺伐とした社会になってしまったのか、とても心が痛みます。私が幼少の頃は、日が暮れるまで外で近所の友だちと遊び、また大人たちも忙しい中にも声をかけ合い、困っているときなどは助け合って生活をする思いやりのある日常でした。

ところがこの頃は、みな忙しい生活の中、近隣の人たちとさえも顔を会わせることが少なくなっているような気がします。子どもの権利条約には、「子どもの命、身体、心をやさしく守るといこと」、「子どもの能力、技術や学力を丁寧で育てていくこと」、「子どもたち一人ひとりが、ありのままの魂(精神)を自由に伸びやかに輝かせながら、生き生きとした生活を

差別のない明るい社会へ

人と人のつながりが希薄になっていく今こそ、住民一人ひとりが地域の一員であるという意識を強くもち、「おはよう!元氣かえ!」と互いに気持ちのよいあいさつを交わし合い、地域の行事に参加して人と顔を合わせる機会を多く持ちたいものです。

昔のように情にあふれた人間の営みや地域の機能を充実させ、社会全体で子どもを守り、みんなで成長を喜んでいけるような体制づくりやその行動力が、今、私たち大人に必要なのではないのでしょうか。

(部落解放・人権啓発資料作成委員会 村岡)